プロジェクト型保育推進事業　保育の質の向上研修

平成25年度 実施報告書

舞鶴市 / 舞鶴保育園長会

は　じ　め　に

舞鶴市では、平成23年度の国のモデル事業「発達障害者等支援都市システム事業」において、「子ども達の発達と学びの促進を図るとともに、保育所と小学校との連携を強めることにより、障害や発達障害のある子どもも含め、移行期の円滑な接続を図る」ため、『舞鶴市保小連携プログラム策定事業』の取り組みを始めました。

保育所と小学校との連携は、平成20年度に改定された保育指針でも、子どもの生活や発達の連続性を踏まえた保育の内容の工夫、小学校の子どもや職員間の交流など積極的な連携に取り組むことを奨励するとともに、就学に際し、子どもの育ちを支えるための資料を「保育所児童保育要録」として小学校へ送付することが義務付けされています。この要録については、市内の民間・公立保育園（所）で検討し、共通の様式を作成して、全保育園（所）が小学校に送付しています。

現在、保小連携については様々な機関で研究が続けられています。本市においても、保幼小連携に関する文部科学省の委員も務められた鳴門教育大学大学院の木下光二先生を講師としてお迎えし、ご指導を受けました。その中で、幼児期の教育と小学校教育では、互いの教育を理解し、見通すことが必要で、一方が他方に合わせるものではないことや、「夢中になって遊び込む」ことが学びの基礎として重要で、遊びの中での体験が小学校の教科学習につながっていくことなどを学びました。

また、保小の「なめらかな接続」のためにも、実は日々の保育や教育を充実させることが重要であることに気づくとともに、その日々の保育の見直しに効果的な「記録」についても学ぶ機会をいただきました。

「保育の質の向上」については、先の保育指針改定のねらいでもあり、そこには、少子化などにより家庭や地域における子育て力の低下がみられるなかで、保護者や地域社会から期待される保育所の役割が深化・拡大していることが背景にあります。平成27年度本格施行予定の「子ども・子育て支援新制度」においても「保育の質」は重要視されており、現在、国府においても「保育の質の向上」のための支援事業が設けられ、推進が図られています。この機を受け、本市においても、モデル事業として開始した保小連携事業を継承拡大し、「保育の質の向上」と、保育の内容を省察することができ、また同時に皆さんにもわかりやすくお伝えするための「可視化」について学ぶ、「保育の質の向上研修事業」を実施することとなりました。

保育指針では「乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われる時期であり、特に、身体感覚を伴う多様な経験が積み重なることにより、豊かな感性とともに好奇心、探究心や思考力が養われる」とし、「それらがその後の生活や学びの基礎になる」としています。また保育所における教育の視点として、保育所では「幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う」とし、小学校の教科学習の前倒しのようなものではなく、保育所の環境（保育室、園庭、遊具などの物的環境や保育士、友達などの人的環境、さらに自然や地域の環境など）を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開していくよう保育することが重要であり、保育士が乳幼児期の子どもの発達を見通し、保育所の環境や様々な活動によりその発達を援助していくことが保育所における「教育」であるとしています。（改定保育所保育指針研修会資料より）

本事業でも、「子どもの主体性を重視した保育・自己肯定感を育む」ことを掲げ、また「ふるさと舞鶴」の環境も活かしながら、「保小連携」「可視化・記録」「プロジェクト型保育（子どもの関心や好奇心を掘り下げて様々な活動に発展させる保育）」の3つのキーワードのもとに学んでいます。運営については、舞鶴保育園長会に中心となっていただき、民間・公立あわせて16保育園（所）が一丸となって研修事業に取り組むことができました。

多くの参加を得ましたが、講師の先生から各園がより細かな指導を受けられるよう、引き続き、鳴門教育大学大学院教授の木下光二先生にご指導いただくとともに、新たに大阪総合保育大学大学院教授の大方美香先生と神戸大学大学院准教授の北野幸子先生にご指導いただくことになりました。どの先生も、

「今まで見えなかった遊びの中にある子どもの育ちや学びを記録し伝えることで、乳幼児期に大切にしたい遊び・学び・生活を可視化する。」

「子どもにとっては、与えられた経験からの学びよりも、やりたい・やってみたい経験の方が学びが多く、子どものやりたい気持ちを育てる。」

「保育の中でどれだけ子どもが自分で選んでいるか？決めているか？考えているか？」

「何ができたか[結果]ではなく、何を学んだか[過程]を重視。」

「子どもが夢中になって遊べる環境と時間を。」

「どんな子どもに育てたいか、育てたい力は何か、保育士が願い(ねらい)を持ち、年齢ごとの発達を知って子どもに関わる。」

「集める保育から集まる保育へ(保育士主導から子ども主体の保育へ)」

「[記録(エピソード記録、ドキュメンテーション)を通じて、子どもの姿や保育士の関わり、環境などの保育を振り返り]→[園内で共有(カンファレンス)し]→[次のカリキュラム作成へ活かし]→[実践]→[評価] その繰り返しが質を向上させる。」

ことが重要であるなど、多くのことを教えてくださいました。大変お忙しい中、何度も舞鶴までご指導にきていただいたことに深く感謝いたします。一回の講演で終わることなく、年間を通じ複数回指導にあたっていただいたことで、前回の指導を実践してみての成果や疑問を次に検討することができ、より深い学びの機会となったように思います。

また保小連携では、舞鶴市小学校教育研究会生活科部との連携により、夏季研究会に保育士も参加させていただき、小学校の先生と共に木下教授からご指導を受けながら連携のプランを練る場をもつ機会が得られ、小学校の先生からも「連携をすると、お互いにいいことがある。」という保小連携の互恵性を実感された感想をいただいています。

しかし、まだ学び始めたばかりで、これからも保育関係者一人ひとりの自己評価を踏まえた園全体の協議により、保育所の良さや取組の効果を確認しながら、さらに質の向上を図るために課題を持って保育していくことが必要です。

ご参加いただいた保育士やスタッフにとっては長時間にわたる保育業務を行いながら、研修を受け、新たな取り組みを行うことは、大変ご苦労が多かったと思います。しかし、その努力は、研修で学んだ「遊びの中での発達や学びを発信する」ことで、保護者にも伝わり、次のような意見が寄せられています。

「保育所での様子はほとんどが行事や発表会でしか知ることがなかったので、日常の様子が知れてよかった。」
「(子どもが)遊びを考え、自分で試行錯誤していることに感動。」
「子ども同士互いに成長し合える喜びを共有できたことが嬉しかった。」
「先生たちの保育に対する情熱が伝わってきた。」「先生の思いを聞いて育児の参考にもなった。」
「子どもに選択する力や考える力を学ばせることは大切だと感じた。」
「(ドキュメンテーション・記録を見て)家に帰ってから、子どもとその内容で会話することができて子どもも嬉しそうだった。」

そして、何より嬉しいのが、好奇心や創造力いっぱいに自分たちで興味・関心のあるものを調べ、友達や保育士と話し合いながら、新しい遊びを展開していく子どもたちの姿です。驚きと発見を繰り返し、本人達はあくまで夢中になって「遊び」ながら、実はいろんな「学び」と「発達」を手にしています。

まだまだ学びの途中ではありますが、子ども達の中に、少しずつこんな姿が見えてきました。

こうした各保育園(所)の取り組みを、一部ではありますが、報告書としてまとめさせていただきました。

子ども達のより良い育ちのために引き続き、研修に取り組んできたいと考えておりますので、ご高覧のうえ、ご支援ご指導いただきますようお願いいたします。

舞鶴市子ども未来室

目　　次

はじめに・・ 1

目次・・・ 3

平成25年度保育の質の向上研修　講師と内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

講師のことば　　〔大阪総合保育大学大学院　大方美香　教授〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

〔神戸大学大学院　北野幸子　准教授〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

〔鳴門教育大学大学院　木下光二　教授〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

年間スケジュール表・・・ 9

実施事業一覧・・・ 10

平成25年度報告会（平成26年3月8日）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

各コース報告「エピソード記録・ふるさと保育カリキュラム」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
南乳児保育所、なかすじ保育園

「プロジェクト型保育」・・ 15
東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所

「保小連携・記録」・・・18
東保育所

講評及び講演「保育の質の向上研修の意義とこれから」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
講師：神戸大学大学院　北野幸子　准教授
資料：パワーポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

参加者アンケートより・・23

平成25年度各園の取り組み・・・ 26
＜永福保育園＞・・・ 27
＜さくら保育園＞・・ 29
＜相愛保育園＞・・・ 31

＜タンポポハウス＞…… 33
＜平保育園＞…… 35
＜なかすじ保育園＞…… 37
＜東乳児保育所＞…… 39
＜南乳児保育所＞…… 41
＜西乳児保育所＞…… 43
＜東山保育園＞…… 45
＜ルンビニ保育園＞…… 47
＜中保育所＞…… 49
＜岡田保育園＞…… 51
＜八雲保育園＞…… 53
＜やまもも保育園＞…… 55
＜東保育所＞…… 57

参考資料：ニュースレター　№1…… 59
№2…… 64
№3…… 68
№4…… 73

平成25年度　保育の質の向上研修　講師と内容

指導講師	主な内容
大阪総合保育大学大学院 教　授　　大方　美香 	エピソード記録　ふるさと保育カリキュラム ◎子どもの育ちや学びを見えるように（可視化）するため、子どもの遊びや生活の中からひとつのエピソードをみつけ記録する手法について ◎ふるさと舞鶴に愛着を持つ子を育む「ふるさと保育」を題材に記録やカリキュラムについて
神戸大学大学院 准教授　　北野　幸子 	プロジェクト型保育 ◎遊びや生活、身近な自然の中で、子どもたちが興味や関心を抱いていることからトピックスを見つけ出し、調べたり、深めたりしてさまざまな活動に発展させるプロジェクト型保育について ・子どもたちの主体的な活動を支援するため、保育士が、子どもの興味や発見、疑問を見つけ出し、さまざまな活動へ発展させる力や、遊びたくなる環境づくりをするための手法 ・保育の中で子どもたちがどのように育ち、何を学んでいるかを保護者に伝えるドキュメンテーション等の記録手法
鳴門教育大学大学院 教　授　　木下　光二 	保小連携・記録 ◎保育園（所）と小学校の連携を深めると共に、さらに子どもの育ちや学びを小学校につなげるための連携活動について ◎子どもの育ちや学びが見える記録の書き方や主体的に遊ぶための保育環境・教材について

舞鶴市保育推進事業にかかわらせていただいて
エピソード記録から見えてくること　―焦点化して保育をみつめ、子どもの内的世界に気づく―

様々な出会いとご縁があり、舞鶴市保育推進事業にかかわらせていただき心より感謝御礼申し上げます。全体講演が終わり、第1回目のワークショップ研修は由良川の氾濫という災害に見舞われた直後でした。当然研修会は延期かと思っておりましたが、舞鶴市の行政関係の皆様、保育園の皆様は一丸となって復旧に取り組まれ、予定通りの研修実施となりました。「一日も早く子ども・保護者や地域の皆様に安心していただき保育を通常どおりに」という使命感あふれる情熱と細やかな心遣い、信念に貫かれた姿勢は、保育者の専門性の真髄でした。胸が突き動かされた瞬間でもありました。

まず、今回の保育推進事業の研修方法のすばらしさがあります。一つは、全体講演で終わる一方通行ではなく、継続的に対話を通して行えたことです。もう一つは、様々な保育園の取り組みである「エピソード記録」をもちより、他の保育園の皆様と共に同じ視点に立って真摯に学びあえたことです。「エピソード記録」から保育実践を見つめ、共に子どもの内面や保育者の役割を議論しながら、保育の視点に気づいていかれる姿は感動でした。

この事業「エピソード記録から見えてくること」のすばらしさは、以下に示す4つの事項があります。

1）子どもの実態を把握し適切な援助につなげるため

「エピソード記録」を「なぜ記録するのか？」と問われればそれは「大事なできごとを忘れないため」です。保育者にとって大事なできごとというのは、保育の中でとらえた子どもの姿や育ち、人との関係性や活動の展開、それらのことから見出したさまざまな疑問や発見、感動などではないでしょうか。ただ記録するのではありません。保育者は、毎日の保育生活の中で何を見つめ何を感じようとするかです。外的な子どもの行動や言動ではなく、子どもの姿を焦点化して観察し、子どもの内的世界に気づくことが大切です。記録をすることによって、子どもの実態をより深く見つめ、省察し、今後の保育の計画につなげていくことができます。保育者が子どもの内的世界に気づくとき、子どもの生活や遊びは学びに繋がる素晴らしい世界であることに魅せられるでしょう。保育における疑問や課題の発見は、保育を創造していく礎であり、原動力です。なぜなら「疑問を持つことは、問題（真理）を発見する力」であり、記録することは「問いに対する答えを探すこと」でもあるからです。　記録はこのように「計画→実践→記録（評価）→改善→計画→実践」という循環の中に位置づけられており、保育という営みの中ではなくてはならない役割を果たします。実践記録であるエピソード記録は、決して経過報告ではありません。保育という営みは、保育者と子どもの応答性です。保育者が子どもの内的世界に気づくことによって、子どもの生活や遊びからの育ちや展開、結果は全く違ったものになります。子どもの外的活動だけの記述や保育者の見方関わりが書かれていないものは、省察（保育の評価）を書く必要が生じません。記録から援助の手がかりを見出すこともできません。

2）記録を書くことで「第三の視点」が生まれ、保育を客観視できるようになる

保育の様子を振り返りながら「エピソード記録」を書いていくと、面白いことにもう一人の自分、すなわち第三者的な目が生まれていくことに気づきます。つまり書きながら自分と子どものやりとりを相対化してみるもう一人の自分が生まれていくということです。このもう一人の自分、第三者の視点が生まれることによって、自分の思い込みにブレーキがかかり、保育を客観視する力が養われていくことはいうまでもありません。時間や距離を置いて振り返ることは、過去の事柄を別の角度から見つめ直し、保育を吟味するということを可能にします。

3）記録によって子どもの行為の意味や内面を理解する

記録を通しての省察は「子どもの育ちを振り返ること」と「自らの保育を振り返ること」の両方からなると指針には書かれています。後者においては、保育者の様々な思いや対応のありのままを描き出すことで、自分の保育を振り返るしかありません。大切なことは、生活の中で子どもの思いを受け止め、いかに応答するかという見えない保育の営みです。子どもの心を読み取ろうとする保育者の愛情と熱意が子どもの心に伝わった時、子どもは心を開いてくれます。「エピソード記録」を書くことによって子どもの内面を見つめ、対話できるようになっていく力が養われることこそ保育の醍醐味ではないでしょうか。

4）記録は仲間を繋ぐ

記録にはもう一つの重要な意義があります。それは文章化することにより、自分の考えを他の人と共有しやすくするということです。自分の保育をより高めていくには、それぞれの考えを職場の仲間や保護者とわかりあうことです。文章化し、わかってもらってこそ発展があります。さらには日頃交わることができない知らない人への呼びかけにもなります。園の職員同士がよき仲間になるには、保育の日常をみんなで共有しあうことが必須です。それは、保育者が書いた記録や評価を元に職員間で議論しあい学びあうことを意味します。各クラスの課題についてみんなが関わりあい仲間と一緒に子どもの育ちや保育のあり方を考えあう、すなわちともに学びあってこそ園の活力が湧いてきます。

園全体の乳幼児を保育者全体で見守っていく体制が生まれることこそ重要です。その土俵作りが園長や主任の役割であるとすれば、保育者が書く記録は園内の共有の財産です。エピソード記録を基に意見交換をしあうこと、すなわち保育の日常をみんなで共有しあい子どもに対する理解を深めあっていくことが、今求められる保育園の最大の任務です。

最後に、研修時間も法的には位置づけられず、多様なことが求められる大変忙しい保育の現状の中で「エピソード記録」を書くことは大変なご努力であったことと思います。深謝し、保育者の皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。しかしながら、子どもの未来に向けて今後とも是非継続的に研究をすることが保育の世界を知っていただくことにもつながると信じております。出会いに感謝し、心より御礼申し上げます。

大阪総合保育大学大学院
教 授　大 方 美 香

プロジェクト型保育推進事業にかかわって

この1年、舞鶴市の「プロジェクト型保育推進事業」に関わることができました。私自身良い勉強の機会を頂戴し深く感謝しています。

この事業の素晴らしい点は、多数ありますが、何より第一に継続的に多層的に、しかし、テーマをしっかり絞って研修ができたことが評価できると思います。一度の講演の聴講や、一度の公開保育と研修会、一度の事例検討会といった一度だけの研修の機会よりも、一年を通じて何度も同じメンバーがテーマを絞って研修を積み重ねることは大変重要であることが改めて実感できました。具体的な成果も明らかです。例えば、ドキュメンテーションの記載内容の変化があります。当初は、写真、子どもの発言、保育者の感想といったものが中心でしたが、次第に発達の具体的内容、今後の見通し、遊びの中の学びの保育5領域と関連させた説明が加わり、ドキュメンテーションの内容はこの一年で各段に専門的でわかり易く、そして、教育内容を保護者に伝えることができるものになりました。保育者の先生方がご自身のドキュメンテーションを説明される時の話される内容が増えました。そして何より楽しそうにご自身の実践を話される姿が増えました。

第二に評価できると思われる点は、保育の公開を一般化したことです。これまでに保育を公開される文化がなかった中で、思い切って公開保育を参加全園がしてくださったことは大変良いことであると思います。第一回の公開保育の時の先生方の緊張感は今でも忘れることができません。公開保育とその後のディスカッションは、保育実践を、具体性を持って検討し、また、保育実践の可能性を広げることにつながります。自らの実践を他者の視点によって見直したり、新しい発見ができたりすることが、自分の実践の幅を広げることになると考えます。他者の実践を見ることは、自分の実践を比較の観点から客観的に見直すことにもつながります。公開は、他者に自分の保育を評価され、○×をつけられるといった次元ではなく、多様な見方、実践の在り方を考え、また、自分の保育の根拠を自分で振り返り考えること、他の可能性を考え保育の方法、とっさの判断の時の引き出しを増やすことに繋がります。公開保育について、公開された後、先生方から、「大変勉強になった」、「また公開したい」といった声が多数、聞かれました。舞鶴市の多くの園で保育の公開が積極的になされることを期待しています。

第三に評価できると思われる点は、保育者の実践の力量が向上したということです。ドキュメンテーションは自らの保育を振り返り、子どもの様子から次の保育を構想する有効な道具となったと思います。実際に、この一年の保育が大変楽しかったという声や、子どもの表情から、保育における指示・命令・指導的な要素や設定保育を見直された先生もおられます。発達に適した教材や活動を改めて勉強し、環境構成の工夫を大いに進められたという先生も多数おられました。

第四に評価できると思われる点は、保護者との関係性が深まった点です。教材としてかぼちゃを提供してくださるなど、保育における教育に保護者が深く関心を持ち、ドキュメンテーションを通じて、保育の重要性への理解が高まったことがあげられます。保育は子守ではなく、大切な次世代育成であり、保育実践は、保育専門職による大切な仕事であることが保護者に伝わりつつあると思います。伝えるための工夫が各園でなされその成果は何よりもこのプロジェクトに参加してくださった先生方が大いに実感してくださっているところです。

最後に、本プロジェクトに参加して、私は何よりも先生方のご努力に心より感謝したいと思います。研修時間が十分に法的に位置づけられておらず、教材費項目も上げにくいという保育士の置かれている厳しい現状があります。そのような中、時間と労力を割いて、子どものために尽力されている先生方に深く敬意の気持ちをあらわし、その応援に携わることができたことを私自身も誇りに思います。本当にありがとうございました。

神戸大学大学院　准教授　北野　幸子

舞鶴市の幼児教育

昨夏、由良川の氾濫で岡田保育園が水害に見舞われました。これで2度目ということをうかがいましたが、子どもたちに怪我や被害がなかったことが幸いでした。この2月に寄せて頂いた時には復旧も随分進み、先生方や保護者、行政や地域の方々の献身的な努力の賜だと思いました。支えてくださった舞鶴市の皆さんに感謝です。

水害から暫くして岡田保育園の北川園長先生とお話したした際の言葉がとても印象的でした。それは、「おもちゃなどの教材もたくさん流されたのですが、乳幼児たちが少ししかないおもちゃで考えて遊ぶようになりました」というものでした。何気ない言葉のようですが、ここに幼児教育の原点があるように思いました。遊びは与えられてするものではなく、乳幼児自らが選び創っていくものなのです。それに気付かれたことは、これからの舞鶴の幼児教育を考える上でとても重要なことだと思いました。

2年前から舞鶴市の連携事業に携わらせて頂いていますが、今年度は、連携教育はもとより、保育園の遊びや環境、保育記録等について一緒に考える機会を頂きました。研修会の回数は3回ほどでしたが、以下のような目を見張る変化があったことを感じさせてもらった1年でした。

・日々の保育を重視し、映像や保育記録からエピソード記録を作成すること。
・遊びの意味や原点を見直し、子どもと共に保育を創ろうとすること。
・おもちゃや教材等、与えすぎない保育環境を創ろうとすること。
・子どもが育つ支援とは何かを考えるようになったこと。

キーワードにまとめると、順番に記録、遊び、環境、支援になりますが、いずれもこれまで当然のように考えてきたことを、改めて考え直そうとしたことに大きな意味があるように思います。常に、保育とは、子どもとは、遊びとは、環境とはということを、自身や自園に問い直そうとすることが大切なのだと思います。研修会に参加され、真剣に討議し合う中で、それに気付き、それぞれの園で改善への努力をされるようになったことが大きな前進の一歩のように思います。今後、その努力を続けられて、舞鶴市にしかできない、「舞鶴市の保育」を創っていただけたらと思います。

ただ、保育の営みはとても難しく、簡単にいかないことは周知の事実です。思うような保育、理想とするような遊びや環境をつくるには、何年も何十年もかかるかも知れません。大切なのは、何をめざし、どこに進んでいくかということではないでしょうか。それはまさに、大海を進む船も同じかも知れません。保育のよりどころとなる舞鶴港であることを今後も願っています。

鳴門教育大学大学院　教授　木下　光二

平成25年度　プロジェクト型保育推進事業　年間計画

保育の質の向上と可視化 ～子ども主体の保育・自己肯定感を育む～

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
週		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
全体会 アドバイザー：北野幸子先生 神戸大学大学院准教授	研修		6/1(土) 全体会					リーフレット発行（事業の紹介）	11/16(土) 鳴門教育大学附属幼稚園研究会	12/14(土) 神戸大学大学院研究道場		各コース代表による発表、考察・助言	3/8(土) 報告会 報告書の作成
Aコース （可視化、記録） 指導：大方美香先生 大阪総合保育大学大学院教授 参加園：永福保育園 さくら保育園 相愛保育園 タンポポハウス 平保育園 なかすじ保育園 東・西・南乳児保育所	研修		※舞鶴保育士会と共催して実施		7/27(土) ①研修		9/9(月) ②研修 9/20(金) ③研修			12/16(月) ④研修			
			講演：「エピソード記録の書き方、子どもの見方」				エピソード記録の書き方とカンファレンスについて指導			現地研修：エピソード記録について指導			
			記録										
Bコース （プロジェクト型保育） 指導：北野幸子先生 神戸大学大学院准教授 参加園：東山保育園 ルンビニ保育園 中保育所	研修		5/31(金) ①研修			8/22(木) ②研修		10/25(金) ~~③~~	11/14(木) ③研修				3/7(金) 公開保育
			中保育所見学・指導		東山保育園見学・指導				ルンビニ保育園見学・指導			中保育所公開保育	
			プロジェクト型保育☆記録（ドキュメンテーション）										
Cコース （保小連携・記録） 指導：木下光二先生 鳴門教育大学大学院教授 参加園：岡田保育園 八雲保育園 やまもも保育園 東保育所	研修			6/21(金) ①保小連携				10/16(水) ~~②~~				2/10(月) ②保小連携 公開保育	
				東保育所・新舞鶴小学校								岡田保育園・岡田小学校	
				記録									

×は、台風により延期。

平成２５年度　実施事業一覧

日時／参加者数	内　　容	場　所
平成25年6月　1日(土) 13:30～16:00 市内保育士及び 保育関係者　約160人	<u>プロジェクト型保育推進事業「全体会」</u> 参加園:保育園(永福、岡田、さくら、昭光、相愛、タンポポハウス、平、なかすじ、東山、八雲、やまもも、ルンビニ) 保育所(東、中、東乳児、南乳児、西乳児) 幼稚園(シオン、三鶴) 1. 事業説明 2. 講演会「保育の質の向上をめざして:国内外の議論から学ぶ」 講師:神戸大学大学院　北野幸子　准教授	中総合会館 コミュニティ ホール
平成25年5月31日(金) 13:30～17:00 平成25年6月　1日(土) 9:30～12:00 両日とも約30人	<u>Bコース「プロジェクト型保育」①</u> 指　導:神戸大学大学院　北野幸子　准教授 参加園:東山保育園、岡田保育園、八雲保育園、中保育所 ◎5/31　保育所見学〔中保育所見学→懇談・指導〕 ◎6/　1　講義「プロジェクト型保育・保育の記録について」	中保育所 中総合会館 401研修室
平成25年6月21日(金) 9:00～11:00　21人 11:30～16:00　25人	<u>Cコース「保小連携・記録」①</u> 指　導:鳴門教育大学大学院　木下光二　教授 参加園:八雲保育園、やまもも保育園、東保育所 1. 東保育所・新舞鶴小学校連携活動見学 2. 保育園見学〔やまもも保育園〕 3. ワークショップ〔保小連携講評、記録・保育環境等〕	東保育所 やまもも保育園
平成25年7月27日(土) 13:20～15:00 約130人 15:15～15:45 25人	<u>Aコース「エピソード記録・ふるさと保育カリキュラム」①</u> 指　導:大阪総合保育大学大学院　大方美香　教授 ◎講演　「エピソード記録の書き方、子どもの見方」 ※舞鶴保育士会　共催 参加園:昭光保育園、ルンビニ保育園、永福保育園、東山保育園、さくら保育園、相愛保育園、八雲保育園、岡田保育園、タンポポハウス、平保育園、なかすじ保育園、やまもも保育園、東保育所、中保育所、東乳児保育所、南乳児保育所、西乳児保育所 ◎Ａコース　記録のポイント説明 参加園:永福保育園、さくら保育園、タンポポハウス、なかすじ保育園、東乳児保育所、南乳児保育所、西乳児保育所	東コミュニティ センター 小ホール 会議室
平成25年8月19日(月) 13:30～16:00 54人	<u>舞鶴市小学校教育研究会生活科部夏季研究会</u> 指　導:鳴門教育大学大学院　木下光二　教授 参加:保育園（昭光、ルンビニ、東山、さくら、相愛、八雲、岡田、タンポポハウス、平、なかすじ、やまもも） 保育所（東、中） 幼稚園（朝日、シオン、橘、朝来、聖母、三鶴、舞鶴） 小学校（新舞鶴、三笠、倉梯、倉梯第二、志楽、朝来、明倫、余内、中筋、高野、岡田、由良川） 1. ポイント説明　2. グループ交流　3. グループ報告 4. 模擬授業(八雲保育園・由良川小学校)　5. 講師講評・講演	中総合会館 401研修室
平成25年8月22日(木) 10:00～12:00　19人 13:00～16:00　28人	<u>Bコース「プロジェクト型保育」②</u> 指　導:神戸大学大学院　北野幸子　准教授 参加園:東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所 1. 保育園見学〔東山保育園見学→懇談・指導〕 2. ワークショップ「記録・ドキュメンテーション」「プロジェクト型保育」	東山保育園 ルンビニ保育園

※参加者数には研修委員を含んでいる場合があります。

次ページへつづく

日　　時	内　　容	場　所
平成25年9月9日(火) 13:30～16:30 29人	Aコース「エピソード記録・ふるさと保育カリキュラム」② 指　導:大阪総合保育大学大学院　大方美香　教授 参加園:永福保育園、さくら保育園、相愛保育園、タンポポハウス、平保育園、なかすじ保育園、東・南・西乳児保育所 1. 記録のポイント確認 2. 各園の記録報告→指導　　3. グループワーク→指導	舞鶴市役所 412会議室
平成25年9月20日(金) 27人 10:00～12:00 13:00～14:45	Aコース「エピソード記録・ふるさと保育カリキュラム」③ 指　導:大阪総合保育大学大学院　大方美香　教授 ◎各園の記録報告→指導 参加園:タンポポハウス、平保育園、東乳児保育所、西乳児保育所 参加園:永福保育園、さくら保育園、相愛保育園、なかすじ保育園、南乳児保育所	舞鶴市役所 412会議室
平成25年10月7日(月) 10:00～12:00 12人	Bコース「プロジェクト型保育」勉強会 参加園:東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所 ◎保育見学→質疑応答(神戸大学附属幼稚園　副園長)	神戸大学附属幼稚園 (明石市)
平成25年10月28日(月) 9:20～12:00 10人	Bコース「プロジェクト型保育」勉強会 参加園:東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所 ◎保育見学(運動会)	神戸大学附属幼稚園 (明石市)
平成25年11月7日(木) 16:00～18:00 11人	Cコース「保小連携・記録」勉強会 参加園:岡田保育園、八雲保育園、やまもも保育園、東保育所 ◎各園の振り返り、現状報告、意見交換	中総合会館 研修室2
平成25年11月14日(木) 10:00～12:00　25人 13:15～16:00　28人	Bコース「プロジェクト型保育」③ 指　導:神戸大学大学院　北野幸子　准教授 参加園:東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所 1. 保育園見学〔ルンビニ保育園見学→懇談・指導〕 2. グループワーク「ドキュメンテーション」→指導	ルンビニ保育園
平成25年11月16日(土) 5:00～20:30 47人 9:00～11:30 12:20～13:20 13:30～15:00 15:10～16:30	保育の質の向上研修現地研修会 参加園:岡田・平・タンポポハウス・東山・八雲・やまもも・ルンビニ保育園中・東・東乳児・南乳児・西乳児保育所 平成25年度鳴門教育大学附属幼稚園幼児教育研究会参加 平成23～25年度文部科学省研究開発学校指定(第3年次) 幼小接続の教育課程開発ー遊誘財がひきだす科学的思考Ⅲー ◎保育／授業公開　(合同保育／授業は9:20～10:45) ◎全体会　研究発表:鳴門教育大学附属幼稚園　佐々木晃　教頭 ◎分科会(保育・授業説明／研究協議) ①幼小接続(年長・1年生)　助言:鳴門教育大学　木下光二教授他 ②遊誘財(年少・年中)助言:鳴門教育大学　佐々木宏子名誉教授他 ◎講演　「遊びの中の学びを考える」 講師:文部科学省初等中等教育幼児教育課　津金美智子教科調査官	鳴門教育大学附属幼稚園・同付属小学校 (徳島市)
平成25年12月14日(土) 13:30～19:30 13:40～15:10 15:20～16:50 17:30～19:30	参考研修　学術WEEKS企画　研究道場特別講義 応用「発達科学」としての教育学ー教育保育のさらなる科学化をめざしてー ◎特別講演　白梅学園大学　無藤　隆　教授 ◎シンポジウム　　岡崎女子大学　矢藤誠慈郎　教授 ＜講評＞　　中村学園大学短期大学部　那須信樹　教授 無藤隆　教授　　東北福祉大学　和田明人　准教授 ◎懇親会	神戸大学大学院

日時／参加者数	内　　容	場　所
平成25年12月16日(月) 13:30～16:00 7人	Aコース「エピソード記録・ふるさと保育カリキュラム」勉強会 指　導:大阪総合保育大学大学院　大方美香　教授 参加園:永福保育園、なかすじ保育園、東・南・西乳児保育所 ※さくら保育園、相愛保育園、平保育園、タンポポハウスは各園の記録を事務局が代理で提出、指導受け ◎「エピソード記録とその記録に関する園内カンファレンス」の報告→指導	大阪総合保育大学
平成26年2月10日(月) 10:40～15:30 10:40～13:00　30人 14:00～15:30　15人	Cコース「保小連携・記録」② 指　導:鳴門教育大学大学院　木下光二　教授 参加園:八雲保育園、やまもも保育園、東保育所 ※午前のみ:昭光保育園、相愛保育園、平保育園、タンポポハウス、なかすじ保育園、東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所、南乳児保育所 1. 岡田保育園・岡田小学校連携活動見学→講評 2. ワークショップ〔各園振り返り・成果と課題、意見交換→講師指導〕	岡田保育園 あかつき
平成26年3月　7日(金) 10:00～16:30 10:00～12:30　27人 13:45～16:30　25人	Bコース「プロジェクト型保育」④ 指　導:神戸大学大学院　北野幸子　准教授 参加園:東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所 ※午前のみ:岡田保育園、タンポポハウス、八雲保育園、東保育所、東乳児保育所、南乳児保育所、西乳児保育所 1. 中保育所公開保育→講評、質疑応答 2. ワークショップ〔各園振り返り・成果と課題、意見交換→講師指導〕	中保育所 舞鶴市役所 412会議室
平成26年3月　8日(土) 13:30～16:15 124人	プロジェクト型保育推進事業　保育の質の向上研修 平成25年度「報告会」 参加園:保育園(永福、岡田、さくら、相愛、タンポポハウス、平、なかすじ、東山、八雲、やまもも、ルンビニ) 保育所(東、中、東乳児、南乳児、西乳児) 1. 経過報告 2. 事業報告「エピソード記録・ふるさと保育カリキュラム」 南乳児保育所、なかすじ保育園 「プロジェクト型保育」 東山保育園、ルンビニ保育園、中保育所 「保小連携・記録」 東保育所 3. 講演「保育の質の向上研修の意義とこれから」 講師:神戸大学大学院　北野幸子　准教授	舞鶴商工観光センター コンベンションホール

※のべ研修事業参加人数:約900人(保育士、関係者)